

ネパール地震 「衛生面支援を」

帰国の医師訴え

ネパール地震で医療支援に入った長崎大熱帯医学研究所教授で医師の山本太郎さん(51)が帰国し、9日に朝日新聞の取材に応じた。「山間部では被害の状況がよくなっていない。今後は衛生面の支援が必要だ」と訴えた。

▼国際面Ⅱ女性守りたい
山本さんは国際医療NGO「A



仮設診療所で女の子を出産した女性(手前) Ⅱ長崎大教授の山本太郎さん撮影



山本太郎さん

MDA^A (本部・岡山市)と長崎大による共同派遣で5月1、4日、首都カトマンズから北東へ100^キ弱離れたカディチヨウルという地区に赴いた。病院も被災しており、中庭に張った布の下にベッド約10床を置いた仮設診療所で活動した。夜は診療所の空いたベッドで眠った。

山本さんは「けがの手当てなどの初期対応は終わった印象だ。これからは雨期に備えて衛生面や感染症の対策が重要になる。3カ月や半年といった長期的な支援が求められている」と話した。

診療にあたったメンバーは計約10人。山間部からけが人が自力で歩いたり、担架に乗せられたりし

(福宮智代)